○白糸の滝

峯吉川の白糸の滝は、一名峯の白滝ともいわれ、昔から有名であつたが、最近は県観光三十景の一つとして名をあげている。滝は峯吉川の本村より東に入つた沢にあり、駅より約三十分程の所、一の滝、二の滝、三の滝と三層よりなつていたが、近年はその姿を変えて来ている。

菅江真澄の「月の出羽路」に「往古は滝大きく高く、流の末もいと広かりしよしなり、五十三代の帝淳和天皇の天長の御世（八二四～八三三）五十五代文徳天皇の天安五年（八五七）三月三日、六十一代朱雀天皇の天慶七年（九四四）八月某日みな大地震ふりて滝ゆり崩れたりといい伝う。うべも後記の十九巻大長七年（八三〇）正月云々『出羽国駅伝奉云、今月三日辰時大地震動如雷霆城郭官舎並四天寺丈六仏傾、四王等皆悉顚倒城内屋仆撃死百姓十五人支体折損之類一百余人云々地之割辟甚、大河涸尽細如溝云々』と見ゆ、その時世を始めしか此の滝やこぼれたりけんかし」とあり、古くから世に知られた滝の様である。滝を詠つた歌が伝えられているのであげておく。

落滝津さらせる布の白糸を手にむすひつつ流れ行なり

坂上利仁

夏と秋と行かう滝やしら糸に紅葉織込むかひらの里

小野中将

白糸の滝のかかりや人をして晷そまさる帷子のさと

藤原定秀

また、この地を訪れた人の数も多い、役行者、聖徳太子、行基僧正、弘法大師、慈覚大師、智証大師、教円阿闍梨、一遍上人、月泉良印禅師、左大臣源誠綱公、田村将軍利仁公、田原の秀郷公、小野良実公、源頼義公、源義家公、清将軍武則公、藤原秀衡公、佐藤荘司、藤原勝信等といわれている。（峯吉川）